

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年12月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100583
法人名	医療法人天桜会
事業所名	グループホームなごみ
所在地	鹿児島市甲突町24-16 (電話) 099-224-3106
自己評価作成日	令和5年10月27日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームなごみは、ことといクリニックに併設され緊急時対応がスムーズに行えるようにしています。周辺には甲突川公園があり施設2階からの眺望は公園の四季の移り変わり、特に春は満開の桜が楽しめ、実際に入居者様と散歩したりもします。また入居者と気軽に買い物でスーパーに出ることもあります。コロナ禍であつても地域の方々との関わりを大切に考え、中々、会は開けませんが、近隣の児童センターの児童の定期的な訪問や合奏ボランティアの受け入れなど地域の中で自立した生活が出来るように支援しています。制限はありますが、家族・知人・友人などの面会もあり、入居者様の普段の生活や生活歴の情報から、気持ちに寄り添う支援に繋がるよう努力しています。毎月カンファレンスを開催し職員間で各入居者様の支援について情報を提供し合い、より良いケアが提供できるようにしています。花見や敬老会などの季節行事に加え入居者様の誕生日会、初夏にはプランターで野菜づくりを行ったりと入居者様の要望に答えられるような楽しい企画も随時計画し実行しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、甲突川の川沿いに法人の母体医療機関やデイサービス事業所に併設して平成22年に開設されている。近くには小学校、スーパー、コンビニ、個人住宅等が立ち並び利便性も良く、対面の甲突川の堤防は、春には花見を兼ねて散歩コースになっている。ホームの設備として、職員・家族共にエレベーターを設置する必要性を感じており、現在準備中である。

利用者と家族の絆を大切に寄り添い、利用者のできることやしたいことを尊重した支援を理念として掲げ、利用者の話を寄り添って傾聴する姿勢を大切にしている。利用者のできる趣味活動や楽しみ事を記載した介護計画を作成し、管理者は介護計画とケアの繋がりを意識した支援を目指してカンファレンス等で職員間の意識共有を図り、利用者主体の計画の作成に取り組んでいる。

利用者の6割が母体医療機関を、4割が毎週母体医療機関に来院する外部の医師をかかりつけ医としており、2週間毎に往診を受けている。皮膚科・眼科等の他科受診は家族が同伴し、訪問歯科・訪問看護・居宅療養管理指導の利用もある。母体医療機関の医師はカンファレンスや内部研修等にも参加し、夜間の協力体制も構築され、利用者及び家族の安心に繋がっている。

食事は給食委員会を中心に職員の意見を厨房に伝え、調理担当職員が法人の厨房で副菜の調理を行い、ご飯と汁物はホームで作っている。利用者は下ごしらえ等できることを一緒に手伝い、敬老会やクリスマス等の行事食・誕生日祝い等にはリクエストメニューを取り入れ、食事が楽しいものとなるように支援している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「あるがままの貴方にそっと寄り添う」の理念を念頭に地域の中での生活を実践出来るように施設内の各所に理念を掲示し共有に努めている。	「利用者のできること、したいことを尊重したケア提供」を開設当初からの理念として掲げ、ホール・階段・玄関・厨房など目に付きやすい場所に掲示している。業務に急かされずに利用者の話を寄り添って傾聴する姿勢を大切にしており、申し送りで毎日唱和したり、毎月のケアカンファレンス等で振り返って確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中でも花見などの散策時や近隣スーパーなどへの買い物の際に地域の方とお話したりなど交流を図っている。	町内会に加入しているが、コロナ禍のため行事等への参加はできていない。児童センターの子供達が自作のカレンダーや作品等を持参して一緒に写真撮影したり、ボランティアの楽器演奏会も受け入れ、近隣の散歩時には住民と挨拶を交わすなど、地域との交流を大切に組み入れている。母体医療機関にはホームのパンフレットを置いてあり、併設デイサービス利用者の入居申し込みもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	コロナ禍であっても近隣の児童センターの児童の来訪時の交流やボランティア活動の受け入れをしたり地域との繋がりを大切にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員、町内会、ご家族、通所介護事業所、長寿安心センターからの意見や助言を聞き、支援の質の向上に活かしている。	コロナ禍以降、町内会長(民生委員を兼務)・長寿安心相談センター・家族(契約時に参加確認)・児童センター職員等に、2か月毎に事前に意見等を頂いて書面を、参考に協議している。入居者状況、入退去・入院状況、行事、インシデント・アクシデント等について書面で情報共有し、頂いた意見等は協議してサービスの改善や向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿安心センターとの連携を図り運営推進会議などで情報報告や情報交換の場になっている。	市の介護保険課・長寿介護課・生活保護課・長寿安心相談センター、社会福祉協議会とは各種制度の申請・運営やケアに係る相談・利用者の処遇に関すること・金銭管理等で日頃から協力関係を築いている。今後は市からマイナンバー申請の説明に来所される予定であり、職員は市主催の研修会にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束委員会を開催し、入居者様の現状把握と情報共有をして、拘束を行わないケアに努めている。	「身体拘束廃止に関する指針」を法人で整備し、身体拘束や高齢者虐待の防止についての研修会を年2回実施し、職員が学習を兼ねて担当制で企画している。身体拘束会議を毎月、適正評価会議を3か月毎に開催し、スピーチロック・夜間のみの玄関施錠・ブザーやセンサーマットの使用等について意見交換し、認識を共有できるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修や入浴時のボディチェックを行い、外傷の有無を確認し、虐待が見逃されないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を経験された入居者様の経験をもとに管理者や研修に参加した職員を中心に情報共有し制度への理解を深めるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時の契約は書面を用いて個別に面談を行い十分な理解と納得を得られるように時間をかけて丁寧な説明に努めている。また内容変更の際も同様に行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会や電話連絡時、メールのやり取り、運営推進会議での書面のやり取りの際に意見や要望を引き出せるように努めている。	利用者の思いを伝えられない人が多く、馴染みの職員による声かけにより日頃の会話や表情・仕草等で把握に努めている。家族とは信頼関係を構築して話しやすい雰囲気づくりに努め、面会・電話・ショートメール等により把握しており、面会や設備に関する要望が多い。頂いた要望等は職員間で検討してサービスの見直しや業務改善に繋げ、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中で管理者、主任が職員の意見を拾い上げて要望を法人内での会議を経て検討し運営に反映している。	管理者は日頃から職員間でのコミュニケーションを図り、職員の要望等を聞き取り理解する姿勢を大切にしている。連絡ノートへの記載だけでは職員間での情報共有が不十分と考え、カンファレンス等で周知し検討している。希望休や有給休暇の取得、個人的な事情にも配慮し、資格取得へのバックアップに努めるなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内の評価制度を利用し、年1回以上個人面談を行い、個人目標を掲げスキルアップに努めている。その際、意見や要望も確認し職場の環境整備につとめている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日頃のコミュニケーションや意見交換、グループホーム内部の研修を掲示し積極的な参加を募っている。また職員一人ひとりの資格や経験をもとに、研修の内容と合わせ講師を毎回交代で行いスキルアップをできるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であって中々、他施設との相互訪問の機会が持ててないが、研修のグループワークの時など同業者との意見交換を行ったり、営業の際にその施設の特色を調べたりと少ない機会であるが自施設のサービス質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居支援前に先入観を持たずに関係作りの入居面談を行うようにしている。その際、ご本人、ご家族の思いや不安に思っていることを聞き取り職員間で情報の共有を図り安心して生活できるように工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、ご家族、入居者様の環境変化に伴う不安や思いを伺い支援開始後も支援の問題解決を協力できる関係作りにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援を開始するにあたって、ご家族（照会）入居者様の環境変化に伴う不安や思いを伺い支援開始後、支援の問題解決を協力できる関係づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様と一緒に生活を送るを念頭に、入居者様の生活歴や経験を踏まえて出来る限りご本人の判断を尊重し共に支え合う関係を築いていけるように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と入居者様の絆を思い大切なご家族を介護させて頂いている事を念頭に置き行事への参加や面会時の会話、相談を経て共に支えて行く関係を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚やご友人の方が面会に来やすいような雰囲気づくりに努めご本人の思い出のある写真や品物を居室に置き少しでも不安が軽減できるようにしている。	家族との面会は緩和され、14時から16時までに予約制で2人まで、30分以内で居室で可能としている。1人ずつの近隣の散歩、外泊(年末の予定者あり)、定期的な訪問美容、家族との墓参りや外食、電話や年賀状の取り次ぎ、4か月毎の園だよりの発行など、これまでの関係が継続できるような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格や思い(言葉で表現できないことも含む)を把握し問題解決に努めている。また日常生活やレクリエーションを通じて交流がしやすい雰囲気づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出合いを大切にし退去後もご家族に連絡を取り、近況をお聞きしたりと良好な関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	専門職として、いくら認知症の症状があっても思いが伝えるのが難しい方でも日頃から表情やしぐさなどから汲み取り希望や意向の把握に努めている。	管理者は利用者の利用開始前に病院訪問やデイサービス・母体医療機関等からの情報を得て、入居後も1か月間は十分なアセスメントやカンファレンスを実施し、利用者のできることを支援するケアに取り組んでいる。利用者の趣味活動についても個別的な支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から、生活歴や職業歴などの情報を収集し、趣味や得意なことを把握してそれらを活かした支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し尊重したうえで、ご本人の残存能力を活かした支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活上の課題をその都度、精査し、ご本人、ご家族の意向も含め、常に主治医を交えて会議を行い、介護計画が現状に即しているか意見を出し合いより良い物ができるよう努めている。	利用者や家族の思いや意向を把握し、主治医の意見や担当職員を中心とした職員の意見をもらい、利用者のできることを見つけて園芸・手芸・調理などの趣味活動や楽しみ事のある計画を作成している。管理者は介護計画とケアの繋がりを意識した支援を目指し、カンファレンス等で職員間の意識共有を図り、利用者主体の計画の作成に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の身体状況や認知症の状況把握に努め、情報を共有できるように努めている。朝夕の申し送り時には実践の結果や入居者様の細かな情報も共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な訪問診療、ニーズに応じた心療内科や歯科の往診を行えるように連携を図っています。また訪問理美容、ボランティアを受け入れるなど柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍中でも、児童センターの児童との交流を継続し、近隣のスーパーへの買い物、公園への散歩などできる事は行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し法人内の定期的な訪問診療の他に、必要に応じて往診を行ったり、内科以外の診療科の病院の訪問受け入れを行っている。	利用者の6割が母体医療機関を、4割が毎週母体医療機関に来院される鹿児島医療センターの医師をかかりつけ医としており、2週間毎に往診を受けている。整形外科・皮膚科・眼科・精神科等の専門診療科の受診は家族が同伴し、訪問歯科・訪問看護・居宅療養管理指導の利用もある。夜間は母体医療機関の医師の対応が可能であり、利用者・家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内や施設の看護師と連携を取り合い、定期的な訪問診療以外の変化、緊急時はすぐに報告し、指示を受け対応している。またその時々には指導を受けた場合は、情報の共有を行い職員の意識や知識の向上に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は主治医からの紹介状、看護師からのサマリー、ケアマネジャーからのADL表などで情報交換を図り、早期治療は勿論、少しでも入居者様の負担がないよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に入居者様が重症化した際の看取りに関する方針を説明し同意を得ている。また入居者様に変化があった場合には都度ご家族に連絡し、看取りについて再確認している。主治医とも連携し職員間の研修やカンファレンスを開催しチームでの支援に努めている。	「重度化した場合における看取り指針」を整備し、入居時に説明して同意を得ている。母体医療機関とは密に連携を図り、カンファレンスや内部研修には主治医の参加も得て協力体制が構築されている。研修会を実施して職員のスキルアップと不安の軽減に努め、今年度も見取りを実施した。主治医を中心に家族とも十分に話し合い、看取り終了後にはケアの振り返りや検討会を実施し、チーム支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行い、施設看護師から緊急時や初期対応の指導日常的に受け、実践できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のマニュアルは職員が常時閲覧できる所に置いてある。また年2回消防訓練・災害訓練を行い緊急時対応の準備に備えている。	火災・地震・津波・風水害に対応した「防災マニュアル」を整備し、夜間想定を含む火災に対する避難訓練を消防署立ち会いの下に実施している。消火器の使い方についてはデイスサービスと合同訓練を行い、自動通報装置の設置、避難経路の確認や寝たきり者の搬送方法について検討するなど、災害に備えて取り組んでいる。備蓄は厨房の近くに水・米・レトルト食品等を準備し、カセットコンロ・懐中電灯・ヘルメット5～6個も用意している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の方の理解や、倫理観などの内部研修を実施し、人格の尊重、尊厳、プライバシーや個人情報について学び入居者様がその人らしい暮らしを続けられるように支援している。	接遇や権利擁護に関するマニュアルを作成し、定期的な研修を実施している。個人情報については利用契約時に同意を得ており、異性介助についても入居時に確認している。浴室入口の脱衣所が外から見えるので防災カーテンを設置したり、居室への入室時にはノックするなど、誇りやプライバシー確保に配慮した声かけや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	現状の把握ができてにくい入居者様には、なるべく自己決定が出来るように解りやすく伝え、本人の希望や思いに寄り添った支援が行えるよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人に合ったペースを把握し、合わせて職員の主観的な判断で物事を解決せず、入居者様の希望に沿った生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整髪や、髭剃りは、可能な限り本人の残存能力に合わせて行って頂くようにしている。また着用する衣服など選択することが難しい方でも、選んでいただけるような声かけを工夫している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなようになるように、食事前から雰囲気づくりに努めている。また入居者様からメニューのリクエストを聞いたり、可能な方には食材下ごしらえや食器拭きなどの後片付けを行っていただいている。	給食委員会を中心に職員の意見を厨房に伝え、利用者の状態に合わせて調理担当職員が法人の厨房で副菜の調理を行い、ご飯と汁物はホームで作っている。利用者は下ごしらえ等できることを手伝い、敬老会やクリスマス等の行事食・誕生祝いなど工夫し、食事が楽しいものとなるように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様の食事量・水分量を記録し職員が把握し個別に支援を行っています。また必要に応じて補助飲料、食品を提供するなど支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを行い自歯、義歯の洗浄を通して口腔内の異常がないか確認している。また異常があった時には、家族と相談し歯科受診、訪問歯科の導入と対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の訴えや排泄パターンを把握しチェック表と併用しながら声掛け誘導を行い可能な限りトイレでの排泄ができるように支援している。	利用者の身体状況や意向等を十分に把握し、自尊心や羞恥心等に配慮しながら日中はトイレでの排泄を支援している。職員間では排泄用語を数字に置き換え、利用者の意思を尊重した声かけに努め、小声でさりげなく誘導している。便秘の予防には乳酸菌飲料・水分・繊維のある食品の摂取、体操、歩行等に配慮し、必要時には主治医の意見も伺っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が出来るように排泄パターンを把握し必要に応じて担当医や看護師からの指導にて対応している。また適度な運動、水分補給で排便を促せるようにもしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に週2回の入浴日を設定しているが、入居者様その時の体調や気分の不調などを踏まえ対応している。また入浴支援の場が1対1でコミュニケーションがとれる数少ない場なので、思いが傾聴できるように支援している。	入浴はユニット毎に週2回、1日3人を基本としているが、2人介助の利用者もある。排泄等の汚染時にはシャワー浴等で柔軟に対応し、ゆったりと会話しながら入浴を楽しめるように支援している。入浴後はお茶・乳酸菌飲料等の水分補給や保湿剤等の塗布を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調などの状況に応じて声掛けを行い就寝や休息パターンに考慮しながら寝たきりにならぬよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当医の受診後の処方箋確認申し送りにて内容把握している。また配薬、服薬前後、空の薬袋と4回チェックを行い、薬の飲み忘れ、誤薬のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の得意な事や趣味など生活歴や家族から聞き取り生活の中で実際に行えるような環境づくりに努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設近隣の散歩や、スーパーへの買い物に同行したりと、本人の希望に添えるように支援をしている。また必要に応じて車を使用し遠方への外出支援も行っている。	コロナ禍以降外出の機会が減少しているが、近くの甲突川の堤防を歩いて花見をしたり、ホーム周辺の散歩、買い物、家族との受診や外泊、美容院など利用者の思いを大切に支援に取り組んでいる。ホームではレクリエーション、体操、回想法、ユーチューブ、カラオケ、ビデオ鑑賞など、工夫してリフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前、入居者様同士でのお金の貸し借りや紛失があった為、入居時に基本、お金の所持はお断りしているが、持っていないと不安という方に関してはご家族と同意の上、少額であれば所持、使用も認めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族からの電話の際にはご本人に受話していただいたり、希望があればご家族に電話をかけることもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に入居者様が滞在される居間には季節に応じた飾りつけを行い、施設内でも四季の移り変わりを感じていただいたり、行事の写真を貼ることで、ご本人が行事の振り返りが行え、なごみで生活してる実感を得られるよう努めている。	明るいホールには季節の飾りや生花、イベント時の写真、利用者の作品等が飾られ、ホームのイベントは2階の広いホールで行っている。2階の窓からは甲突川の桜並木が眺められ、外の渡り廊下ではいちごを育てている利用者があり、他の利用者も水やりして楽しんでいる。換気は随時窓を開放して行い、空気清浄機や加湿器も設置して空調管理に努め、居心地よく過ごせるように支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間特に居間では、塗り絵、パズルやファミリーゲーム等入居者様同士で楽しめるものを提供したり、職員が話しやすい雰囲気づくりに努め、居心地の良い場になるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の居室づくりをする時からご本人の使い勝手や慣れたもの、また思い入れのある写真や記念品などを置くことで少しでも今まで生活してきた環境に近づけるようにしている。	居室はフローリングで2階は掃き出し窓、1階はほぼ腰高窓であり、ベッド・エアコン・吊戸棚が備えられている。以前は和室仕様としている利用者もいた。利用者は使い慣れた茶碗・箸・コップ・テレビ・寝具・写真・ぬいぐるみ・仏壇等を持ち込み、その人らしく暮らせる空間となるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の入居者様の残存機能から出来ることをしたいという気持ちを尊重し、見守りと支援を行っている。その際も転倒をはじめあらゆる事故へのリスク管理に十分配慮し、安全に支援が行えるようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない